映画記事をどう書く

職場、地域の機関紙はさいきんますます盛んになつて、教宣活動や文化運動の一端として大きな役割を果しているが、この機関紙の中に申合せたように映画欄が設けられている。ではこの映画記事はどのように書いたが一番理想的だろうか――について述べてみよう。

一貫した方針で

映画欄はよく読まれているが、実の所まだアクセサリー的な取扱いを受けており、一面記事とは何となく肌合いも違つたものがあり、その殆んどが宣伝記事のひき写しだつたり一部の高い鑑賞眼を持つ人だけによる難しい批評であつたりしている。機関紙が教育宣伝の有力な武器である以上、組合員によく読まれている映画欄にも編集者の方針と神経が十分にゆき渡りかつ隈々と生かされねばならない映画による宣伝の殆んどは資本主義の毒素を多分に含んだもので大衆をマヒさせ「考えない国民」をつくる政治的意図でなされている機関紙の映画記事はその被害から読者を守る任務を持つものだとも云えよう。

関心のある映画から

だが残念ながら今の私たちにはそれだけの力はない。それで大衆心理に応じてどう教育宣伝を行うかという立場から映画欄を取扱うことから始めねばならない。決してお座なりの埋め合せやスクラップ原稿だけですますわけにはいかない。

まず最も組合員が関心を持ち、また多くの観客動員をする映画、話題になつている映画が対象にならねばならない。つぎに組合員とその家族にひろく見せたいと思われる、いわゆる好ましい映画、問題作、優秀映画を扱う。さらに重要なことは映画館にかゝらない映画またジャーナリズムから除外されている短篇文化記録映画なども見逃してはならない。それらの中には「ひとりの母の記録」「一九五四年九州炭田」のような優れた民主的な映画も多い。また子供が学校で見せられる教材映画のような作品にもふれ児童の教育にも関心をむけさせねばならない。

討論の發展へ

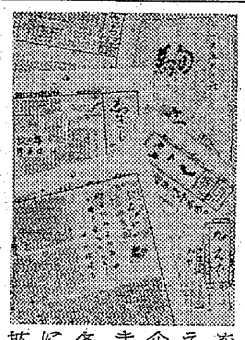
映画雑誌もひろく映画界の動向を知る上には読んだ方がよい。映画欄の記事は雑誌やスクラップでなく、なるべく組合員に書いて貰つた方がよい。大てい職場には映画愛好者のサークルがある。それらの人々は有力な映画欄の記事提供者であり、そのほかに組合幹部などによる感想、批評文が加わつたり、家族、主婦からの投稿、合評会、座談会の記事などをのせるともつと効果がある。また組合外の知名人、文化人、専門家の原稿も定期的に入れて正しい映画の見方などを育てゝゆくことも忘れてはならない。

私は「君の名は」をこう見た、と或る人の批評が出る。次の号では主婦からこれに反論が出て、一つの映画を中心に討論が発展するのも楽しい。要するに、みんなが話し合い、深く考え、自分の意見をのべ、正しい結論や方向をみちびき出すことをこんな所からでも考えてみよう。

俺の・私の新聞

活潑になつた地域新聞

各職場、地域で発行されている職場新聞や地域新聞は発行以来たゆまなく続けられているが、これに刺戟され、最近とくにこの活動が活発になつてきて、情宣活動や文化活動の大きな根張りとなつてきている。



三川支部では、緑ヵ丘桂分会の「かつら」楓、西原分会の「うたごえ」「にしばる」、外来一区で発行する「いつく」、四山支部敷島分会での「やぐら」「しきしま」や大島一分会の「やぐら」などはなかでも著名なもののようである。

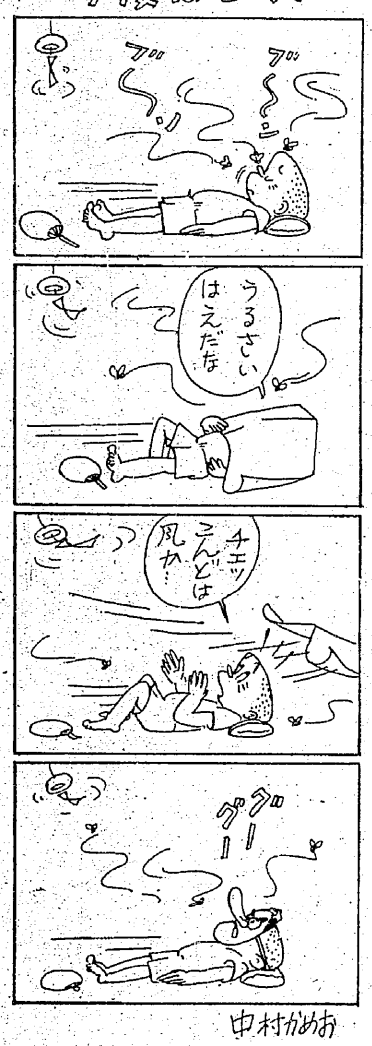
これらの機関紙が今度の四十三日ストでは大きな情宣活動をなしていることは、今後の地域活動に大きな役割が期待されている。

各紙とも分会員、主婦会員の協力で真剣な編集が行われていて、たとえガリ刷りだが、発行後二、三回で止めるというへい害を打破つてたくましい前進をつづけているのは大きな成果でありましよう。

とくに注目されるのは、外来という困難な条件の中で発行されている三川の外来一区「いつく」は回を追つて編集内容に創意が加えられて充実していますし、企画者の苦労のあとが偲ばれます。

各紙とも婦人や年寄り、小供に至るまで発言のスペースを拡げて、文芸特集欄（いつく四号）なども設けて分会員同志の融和や知識向上に努力しています。このほか不定期に発行されるのまで入れると相当数なものに上ると思われています。

今度はどうだ

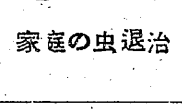


中村かめお

平島編集部長談

職場や地域の末端組織で機関紙活動がなされていることは、組織強化の面で重要な役割を果していると思う。機関紙「みいけ」を充実させるためには、この末端機関紙を育成することによつて目的を達することが出来ると思う。

今期はこの種の機関紙コンクール（八月の予定）やガリ版、編集の講座を講師を迎えてやりたいと思つている。



家庭の虫退治

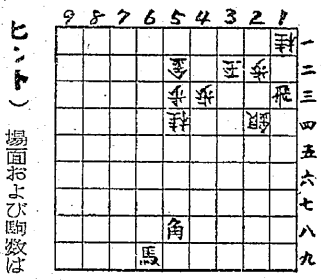
ハエ、蚊、油虫、南京虫、家ダニ（そんなにいるもんかとお怒りなさるな）がいるとして、素人に使いやすい薬品はDDT、BHCがよろしい。

残効性（きき目の長短）が長く一週間はもつし、部屋の中なら一夕くらいきく。部屋にかけるのには油剤なら乾きも早いし跡が残らない。これを噴霧器で壁、天井に施れない程度にかける。水和剤だと白いハン点が残る。虫の発生源にかける時には、油では不経済だから水和剤を使う。便所のウジ退治にはオルソ剤の五十倍に薄めた液をジョロか噴霧器でまく。これは残効性がないから少なくも十日に一回はまくこと。

ボーフラには除虫菊乳剤（三十倍に薄める）がよく、ボーフラのいる水の六百分の一から千分の一の量でリツパにきく。これにも残効性がないので、十日に一回まかねばならぬ。

錠剤や線香型になつたBHCもある。部屋をしめ切つて虫をいぶし殺すのだが、蚊取り線香と違つて刺激が強いから気管支をいためる恐れがあり、いぶす時だけ部屋を出ていた方がいい。これはDDTほどには残効性がない。

詰将棋



ヒント）場面および駒数は多いが手数は案外少ない、大駒にたよらず捨駒によつて解決。

持駒　飛、金、桂、桂

（出題）四山・小野　強

今週の映画

○セントラル＝廿日より「荒野の貴婦人」「汚れた顔の天使」。○太陽館＝廿二日より「森繁よ何処へ行く」「幽霊タクシー」○大天地＝廿二日より「愛町のお・帳場娘」「隠密記大会」○東映＝廿二日より「母子像」「江戸三国志」○三鉱＝「へそくり社長」十七日　緑ヵ丘　十八日宮清　十九日宮原、万田　廿日渡瀬　廿一日三川、港務所　廿二日三作、建設　廿三日四山

コント二題

万太郎作

ないしよで ネ

田村さんは組合の専従役員になりました。闘争がはじまつて、毎晩、家へ帰るのは終電車。二人の子供はトツクにねています。朝はつかれた田村さんがねているまに子供たちは学校へ……。

そんなわけで、このところ子供たちに会うのは寝顔だけです。

ある朝、田村さんが目をさますと、「お父さん、たまにはオミヤゲたのみます」と五年の子の置手紙です。早速、その晩、本を買つて来て二人の枕もとにおいておきました。次の朝、「お父さんありがとう」と、今度はお礼の置手紙です。子ぼんのうの田村さんは、結婚まえ、奥さんからラヴレターの返事を貰つたとき以上に嬉しくなりました。今朝もウトウトしていると、一年生の子がソツと枕もとに手紙を置いて行つたようす。手をのばして見ると、

「お父さん、ボクおねしよしちやつた。お母さんにないしよで、ほしてね。」と書いてありました。

永年勤續表彰者

〝来る〇月〇日、永年勤続表彰式を挙行致しますので参列下さい〟ガリ版刷りの招待状ではあるが坂田さんはウヤウヤしく、人事から廻された招待状をいたゞいた。

三十年前、高等小学校を卒業とともに会社に入社したのだが、一口に三十年というが、永い人世航路であつた。

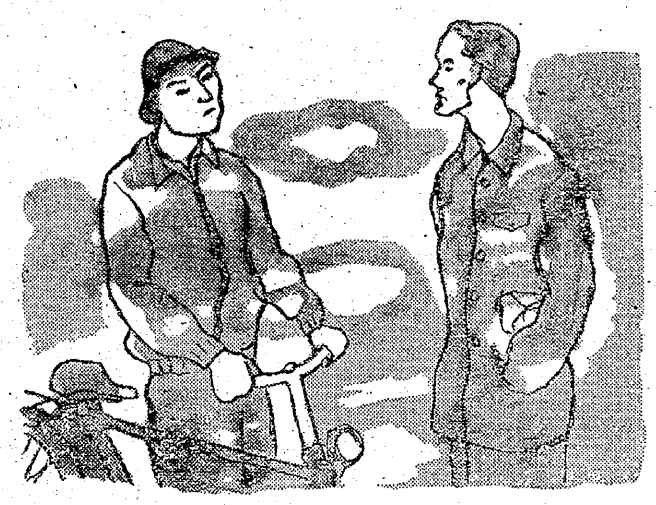
愈々式典の当日が来た。朝から一家は大騒動である。奥さんはネクタイ、靴と頭のテツペンから足の先まで気を配り、名前を呼びあげられた時の返事の仕方から、かんで含めるような教授ぶりである。

「××鉱三十年勤続代表坂田金助」司会者の言葉に予期はしていたものゝ、勤続三十年、このようなオゴソかな場所に出たことのない坂田さんは声がつまり「ハイ」といつたのか「ヘイ」といつたのかわからぬ声を出して、断頭台に向う格好で正面に進み、左右へ二三回、正面へ五度位い頭を下げた所長の読みあげる。「君は入社以来三十年社業に……」

読みあげる声も耳に入らず、やつとわれに返つた時は、幾度か頭を下げてうしろを向いていた。

例年通りのざゝやかな酒宴の後散会となり、帰路についたが、三十五年勤続の大畑さんが、目もとを赤くして、

「三十五年間働いたが、貯金も何も残らず、子供を入替採用で仕事につけたことが三十五年勤続記念だつた。」



海外トピック

世界最高の建物

モスクワに高さ六百メートルのテレビ・アンテナが作られることになつた。パリのエツフエル塔は三百メートル、世界最高のエンパイア・ステートビル（ニユーヨーク）も四百四十八メートルだから文句なしに世界最高の建物になる（RP＝共同）

英國でソ連のテレビ

英国イングランドの東北部、北部のテレビ聴視者は、このところ、ときどきダイヤルをモスクワのテレビ放送にあわせてはモスクワ・テレビ放送を楽しんでいる。時には一、二秒間ングナルカードが見えただけのときもあるが、数分間ロシヤ語解説つきのシーンが見えたこともある。専門家に言わせると夏の太陽で高層の大気が暖められるとテレビ電波が非常に遠くまで達することもあるそうで、別に冷戦の緩和とは関係がないそうである。（ロイター発）

授業料全廃

ソ連では、これまで授業料をとつていた中学校上級学年、中等専門学校、大学、高等の授業料を廃止することが決定した。九月の新学期から実施する。（ACH共同）

母子像

清新な母もの映画

山田五十鈴の熱演が見もの

第二回世界短篇コンクールで一等を獲得した八生十蘭の原作映画作品で、高く美しく奏でる母と子の愛の結合を描くヒユーマンな物語。

昭和二十年、サイパン島玉砕の直前、当時七才だつた和泉太郎（山手弘）は母ユキ子（山田五十鈴）に抱きかゝえられて、米軍の砲火をどう窟の中へ逃れていた。

日本人は思い思いに死に場所を求めて自ら消えていつた。そうした中で太郎も首に締めつけられた母の水玉のスカーフ、生と死の瞬間に母の面影を脳裡に刻もうとするその時、激しい炸裂音が二人を引離した――爆音が去り、静じやくが訪れる。米軍の二世将校ヘレン・清水が失神している太郎を救つた。民間人抑留所で太郎は隣家の娘矢田信子から母の最後を聞かされた。生き残つた太郎と信子は祖国に帰り、敗戦の中で苦しみを耐えて太郎をせる信子の生活が始まつた。

だが或る夜身体を張つて街の辻に立つた信子は警察にひかれ、残された太郎は浮浪児となり横浜へ流れ、靴磨きするうちヘレン・清水に再会、清水は喜び太郎をセント・ジョセフ学院へ入学させた。しかしこの幸福も朝鮮戦線で清水が戦死しはかなく破れ去つた。悲しみをまぎらわすためふと手にした雑誌に母に似た人の顔を見出し、がく然と目を見張つて我を忘れてその女を追い求めた。

そしてバア・ヴイナスという酒場で若いGIと戯れているみどりという女、太郎はその横顔に母ユキ子の面影をみた。太郎をみてはじかれたように身を起したユキ子は しかし太郎を抱こうとはしなかつた。母の姿を恥じて動揺する心を押えた。酔のかげで泣き寝入る姿にこらえきれない母情を知り一夜の赤坂に昔日の愛情を蘇らせた。

一先づ太郎を酒場から去らせたが帰途母が外人相手の娼婦だと聞き店に引返し太郎のさげすむような言葉が飛ぶ「ぼくのママじやない!!パンパン!!」嫌悪と怒りになつた少年の心はこうして絶望から死を選んだ。

母をバ倒して去つた太郎は街をさ迷い鉄路に横たわり死を待つたり駐留軍のキヤンプに放火し米軍の手で日本の警察に引き渡された。

ここで太郎の目は若い警官の拳銃に吸い寄せられていた。太郎は嬉ガクする警官をしり目に拳銃をぬくら射ちした。「どうせ死ぬんだ!」幼い響きが洩れた時、太郎はぐつたりのぞけり「ママ!」と最後の息をはく。ユキ子は太郎の危篤を知らされ苦悩を強い酒でまぎらわせそれをじつとこらえた。太郎と二人だけで幸せに住める国、ユキ子はひたすらそれをえがく、死がそれを救つてくれるように思い彼女は暗い波をじつとみつめた。

（二十二日から東映）

＝映画紹介＝　〔東映作品〕